



平成二四年度 秋田県消防功労者表彰式



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費を含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中泉 松之助
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二四年度秋田県消防功労者表彰式は秋田県及び公益財団法人秋田県消防協会の共催により、三月一四日(木)午後一時三〇分から、秋田市の秋田県庁第三庁舎八階大会議室で、受章者など一五〇人が出席し、開催された。

式典は、最初に堀井啓一秋田県副知事が式辞を述べた後、消防庁長官表彰状や消防庁消防団協力事業所表示証、日本消防協会定例表彰の伝達が行われたほか、平成二四年一月から一二月までの一年間、火災の発生がなかった市町村を表彰する秋田県知事表彰が行われた。

続いて、中泉松之助秋田県消防協会長の挨拶、来賓を代表して小松隆明秋田県議会副議長と高橋一秋田県警察本部警備第一課調査官が祝辞を述べ、最後に受章者を代表して、板垣英雄にかほ市消防団長が謝辞を述べた。

平成二十五年度全国統一防火標語
消すまでは
心の警報
ONのまま



式辞(要約)
秋田県副知事
堀井 啓 一

日ごろ皆様には、火災を始めとする様々な災害から県民の生命や身体、財産を守るため、昼夜を分かたずご尽力いただいております。この場をお借りして、心から敬意を表しますとともに、受賞される皆様に心からお祝いを申し上げます。

消防防災体制の充実強化は、国と地方に共通する最重要課題のひとつであり、地域の安全・安心を確保するためには、住民・地域・行政が一体となった体制を構築することが何よりも重要であります。

地域防災の中核を担う消防団員は、人口減少や少子高齢化などにより年々減少しておりますが、女性団員や機能別団員数は増加しており、今後の消防団を支える力として、地域の期待もますます高まっております。

県といたしましても、東日本大震災等の災害を踏まえ、「秋田県地域防災計画」の全面的な見直しを行う

ほか、防災教育の強化に向けた県消防学校・災害疑似体験施設のリニューアルや地震体験車の導入配備、様々な災害に迅速に対応する体制の強化を図るための防災情報システムの更新などを進めるとともに、市町村と連携し消防職・団員の活動時における安全確保対策に取り組んでまいります。

皆様におかれましては、安心して暮らせる地域づくりや、消防防災体制の充実に、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



挨拶(要約)
公益財団法人
秋田県消防協会
中泉 松之助

栄えある受章を心からお祝い申し上げます。

戦後最大の災害となりました東日本大震災から二年が経過しました。あの震災における消防職・団員の懸命な活動は、国の内外から高い評価を頂きましたが、残念ながら多くの殉職者を出してしまいました。

このようなことを決して繰り返さないためにも、消防体制の整備を更に進めて行かなければなりません。

一方、県内では、火災は今もなお後を絶たず、四月の爆弾低気圧に続



消防庁消防団協力事業所表示証伝達

き、ゲリラ豪雨、八月の猛暑、そしてまたこの豪雪と、自然災害の脅威も依然として続いております。

このような中、県民の消防防災に対する関心・期待はますます高まってきております。

私達消防人は、県民の安心・安全の確保という強い願いに込めて行くため、一層高い土気の下に訓練を重ね、地域との連携を更に深め、より強靱な体制を構築し、あらゆる災害に全力で立ち向かってまいります。

本日、受章されました皆様には、これからも地域の消防防災のリーダーとして、それぞれの分野でなお一層のご活躍・ご支援を賜りますようお願い申し上げます、お祝いの言葉といたします。



受賞者代表謝辞



日本消防協会表彰旗伝達

消防庁長官表彰

◆功 勞 章 (2名)

にかほ市消防団	団 長	板 垣 英 雄	横手市大森消防団	団 長	稲 葉 盛 榮
---------	-----	---------	----------	-----	---------

◆永年勤続功労章 (76名)

横手市消防本部	消 防 監	泉 田 榮 次	由利本荘市消防本部	消 防 監	伊 藤 敬 一
男鹿地区消防一部事務組合消防本部	消 防 監	大 高 正 人	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	佐々木 浩
由利本荘市消防本部	消防司令長	井 島 忠 義	湖東地区行政一部事務組合消防本部	消防司令長	伊 藤 繁
秋田市消防本部	消防司令長	加賀谷 英 治	由利本荘市消防本部	消防司令長	工 藤 康 治
五城目町消防本部	消防司令長	佐 藤 與志美	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	田 口 準 二
能代山本広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	芳 賀 康 夫	秋田市消防本部	消防司令長	樋 渡 統 一
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	藤 原 運 悦	横手市消防本部	消防司令長	藤 原 正 美
能代山本広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	本 庄 毅	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	松 田 浩 二
秋田市消防本部	消防司令長	森 合 和 美	大館市消防本部	消 防 司 令	石 田 多喜男
にかほ市消防本部	消 防 司 令	伊 東 善 輝	北秋田市消防本部	消 防 司 令	白 沢 満 雄
鹿角広域行政組合消防本部	消 防 司 令	柳 沢 政 雄	潟上市消防団	副 団 長	石 川 善太郎
井川町消防団	副 団 長	児 玉 武 夫	仙北市消防団	副 団 長	高 橋 博 紀
仙北市消防団	副 団 長	田 口 忠 正	大仙市消防団	副 団 長	田 村 健 郎
由利本荘市消防団	副 団 長	原 田 俊 孝	五城目町消防団	副 団 長	藤 井 好 春
秋田市消防団	副 団 長	古 木 仁 悦	大潟村消防団	副 団 長	松 橋 稔
藤里町消防団	分 団 長	安 保 美佐穂	秋田市消防団	分 団 長	石 塚 彌左衛門
八郎潟町消防団	分 団 長	伊 藤 洋 一	由利本荘市消防団	分 団 長	遠 藤 満 博
大仙市消防団	分 団 長	大 友 金己知	美郷町消防団	分 団 長	奥 山 幸 誠
横手市山内消防団	分 団 長	小野寺 千代美	男鹿市消防団	分 団 長	加 藤 勝

由利本荘市消防団	分 団 長	工 藤 金一郎	横手市横手消防団	分 団 長	黒 澤 善 一
能代市消防団	分 団 長	腰 山 佳 克	大仙市消防団	分 団 長	小 松 強
美郷町消防団	分 団 長	齊 藤 一 夫	大館市消防団	分 団 長	齋 藤 新 昭
秋田市消防団	分 団 長	齋 藤 義 人	大仙市消防団	分 団 長	佐々木 孝 市
横手市大森消防団	分 団 長	佐々木 重 一	湯沢市消防団	分 団 長	佐々木 長 一
北秋田市消防団	分 団 長	佐 藤 昭 夫	鹿角市消防団	分 団 長	佐 藤 国 男
仙北市消防団	分 団 長	佐 藤 健	潟上市消防団	分 団 長	佐 藤 進 弘
秋田市消防団	分 団 長	佐 藤 隆	横手市雄物川消防団	分 団 長	佐 藤 良 友
大仙市消防団	分 団 長	佐 藤 裕 藏	羽後町消防団	分 団 長	須 藤 淳 一
大仙市消防団	分 団 長	進 藤 文 隆	にかほ市消防団	分 団 長	武 石 忠 夫
大館市消防団	分 団 長	高 橋 久	上小阿仁村消防団	分 団 長	西 成 嘉 一
大館市消防団	分 団 長	田 村 東 一	湯沢市消防団	分 団 長	藤 田 久 悦
横手市平鹿消防団	分 団 長	藤 井 敬 司	北秋田市消防団	分 団 長	諸 澤 達 雄
三種町消防団	分 団 長	三 浦 泰 昭	八峰町消防団	分 団 長	山 田 藤 雄
鹿角市消防団	分 団 長	山 崎 敏 之	能代市消防団	分 団 長	若 松 孝 充
秋田市消防団	分 団 長	横 山 久 雄	大館市消防団	副 分 団 長	佐々木 都 司 雄
横手市増田消防団	副 分 団 長	石 川 実	大仙市消防団	副 分 団 長	西 方 文 敏
横手市十文字消防団	副 分 団 長	菅 原 善 市	男鹿市消防団	副 分 団 長	西 方 文 敏
大仙市消防団	部 長	渡 部 良 太 郎	小坂町消防団	班 長	佐 藤 良 雄

◆消防団等地域活動表彰 (事業所表彰) (1 事業所)

横手市 株式会社 吉田建設

消 防 庁 表 示 証

◆消防団協力事業所表示証 (6 事業所)

鹿角市 工藤製作所	鹿角市 株式会社 浅利佐助商店	鹿角市 株式会社 米村組
鹿角市 株式会社 ミートランド	大仙市 秋田上日工業 株式会社	大仙市 有限会社 県南開発工業

秋 田 県 知 事 表 彰

◆無火災表彰 (3 町) 藤 里 町 上小阿仁村 東成瀬村

日 本 消 防 協 会 表 彰

◆表 彰 旗 (1 団) 能代市消防団

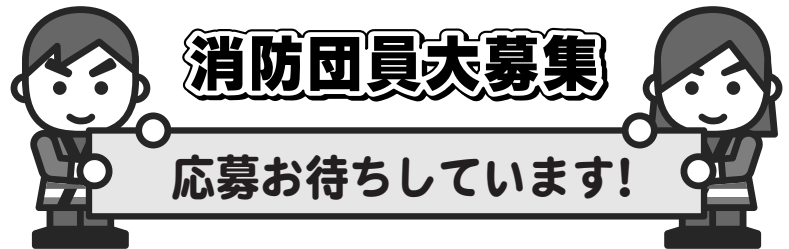
◆竿 頭 綬 (3 団) 三種町消防団 男鹿市消防団 湯沢市消防団

◆功 績 章 (19名)

鹿角市消防団	副 団 長	児 玉 誠 喜	北秋田市消防団	団 長	北 林 榮
大館市消防本部	消 防 監	畠 山 亮 一	八峰町消防団	副 団 長	奈 良 徳 男
能代市消防団	分 団 長	加賀谷 一 彦	潟上市消防団	団 長	古 戸 俊 行
五城目町消防団	団 長	一 関 鎌 一	秋田市消防本部	消 防 司 令 長	佐 藤 好 幸
秋田市消防本部	消 防 司 令 長	清 野 洋 一	由利本荘市消防団	副 団 長	田 口 憲 一
由利本荘市消防団	分 団 長	那 須 勝 弘	仙北市消防団	団 長	佐 藤 生 治
美郷町消防団	副 団 長	高 橋 勝 利	大仙市消防団	副 団 長	佐 藤 一
横手市十文字消防団	団 長	和 泉 芳 美	横手市横手消防団	副 団 長	富 田 昭
横手市雄物川消防団	副 団 長	近 江 幸 光	湯沢市消防団	分 団 長	西 成 嘉 一
羽後町消防団	分 団 長	佐 藤 良 友			

◆精 績 章 (46名)

鹿角市消防団	分 団 長	山 崎 敏 之	鹿角市消防団	分 団 長	田 原 淳 二
大館市消防団	分 団 長	浪 岡 善 廣	大館市消防団	分 団 長	石 川 久 晴
北秋田市消防団	分 団 長	藤 田 久 悦	上小阿仁村消防団	副 団 長	武 石 聡
北秋田市消防本部	消 防 司 令	白 沢 満 雄	能代市消防団	分 団 長	腰 山 佳 克
能代市消防団	分 団 長	安 保 治 夫	三種町消防団	分 団 長	荒 川 毅
八峰町消防団	分 団 長	米 森 吉 清	男鹿市消防団	分 団 長	渡 部 喜 代 文
潟上市消防団	副 団 長	石 川 善 太 郎	五城目町消防団	副 団 長	藤 井 好 春
井川町消防団	団 長	遠 間 富 和	大潟村消防団	分 団 長	加 藤 憲 人
秋田市消防本部	消 防 司 令 長	櫻 田 寿 明	秋田市消防本部	消 防 司 令	土 田 高
秋田市消防団	分 団 長	金 子 一 典	秋田市消防団	分 団 長	伊 藤 隆 一
秋田市消防団	分 団 長	桑 原 民 生	由利本荘市消防本部	消 防 司 令 長	工 藤 康 治
由利本荘市消防団	分 団 長	遠 藤 満 博	由利本荘市消防団	分 団 長	工 藤 金 一 郎
由利本荘市消防団	分 団 長	佐々木 義 雄	由利本荘市消防団	分 団 長	高 橋 豊 昭
にかほ市消防団	分 団 長	戸 蒔 成 一	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 司 令 長	阿 部 広 一
大仙市消防団	副 団 長	安 藤 喜 美 雄	仙北消防団	副 団 長	田 口 忠 正
大仙市消防団	副 団 長	豊 巻 一 男	大仙市消防団	副 団 長	判 田 勝 補
美郷町消防団	分 団 長	稲 川 高 志	横手市消防本部	消 防 司 令 長	岡 部 新 吉
横手市雄物川消防団	分 団 長	佐 藤 弘	横手市消防本部	消 防 司 令	谷 口 清 二
横手市消防本部	消 防 司 令	高 橋 信 宏	横手市大森消防団	分 団 長	佐々木 重 一
横手市雄物川消防団	分 団 長	長谷川 喜 一	横手市増田消防団	分 団 長	白 澤 進
湯沢市消防団	分 団 長	半 田 好 男	湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消 防 司 令 長	阿 部 祐 作
東成瀬村消防団	副 分 団 長	小田原 克 己	湯沢市消防団	副 分 団 長	木 村 宏 一
湯沢市消防団	副 分 団 長	高 橋 廣	湯沢市消防団	副 分 団 長	佐 藤 齋



消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。

消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

消防団員の減少で、地域防災力の低下が懸念

本県の消防団員数は、昭和31年には3万6千人が在籍していましたが、年々減少し続け、平成24年には半分を割り込み、1万7,800人となりました。

地域の消防防災力の低下が懸念されています。

多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。

一人でも多くの方に、消防団活動に参加いただけることを期待しています。

平成25年度主な事業計画

事業項目	実施時期
第1 消防思想普及啓発事業	
1. 火災予防運動の推進	年間
2. 防火ポスターコンクールの実施	平成25年11月
3. 殉職者慰霊に関する事業	
(1) 秋田県消防殉職・団員慰霊祭	平成25年8月27日
(2) 全国消防殉職者慰霊祭	平成25年9月12日
4. 広報紙の発行とホームページの開設	
(1) 新聞「消防秋田」の発行	毎月1回(1,100部)
(2) ホームページでの情報提供	年間
第2 地域消防防災力向上推進事業	
1. 消防団員の教養研修	
(1) 現地教養研修の実施	年間
(2) 秋田県消防大会の開催	平成25年6月29日
(3) 各種研修会等への参加	
・消防団員指導員研修	平成25年10月26日～27日
・全国女性消防団員活性化ぎふ大会	平成25年10月30日
・消防団120年・自治体消防65周年記念大会	平成25年11月25日
・女性消防団員教育訓練	平成25年11月30日～12月1日
・消防団幹部特別研修	平成26年1月14日～17日
・消防団幹部候補中央特別研修(男性)	平成26年2月5日～7日
・消防団幹部候補中央特別研修(女性)	平成26年2月12日～14日
2. 消防操法大会の開催	
(1) 秋田県消防操法大会	平成25年9月6日
(2) 全国女性消防操法大会	平成25年10月17日
3. 消防団活動の活性化	
(1) 消防団長研修	平成25年12月5日
(2) 女性消防団ネットワーク会議	平成26年1月30日
第3 消防互助会事業	
第4 会議の開催	
(1) 評議員会	平成25年5月29日
(2) 理事会	年3回開催
(3) 会計監査	平成25年4月18日
(4) 消防互助会審議委員会	平成25年4月25日
(5) 地域消防団体事務担当者会議	平成25年6月6日

秋田県消防協会第三回理事会在三月七日(木)、秋田市の「イヤタカ」で開催され、平成二五年度事業計画や収支予算などが承認されたほか、全国女性消防操法大会に大仙市消防団女性消防隊の出席が決定された。

また、二月二五日(月)に開催された第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会実行委員会で承認された収支決算等についても報告され、了承された。

**平成二五年度
事業計画・収支予算承認される**
秋田県消防協会

平成25年度収支予算

勘定科目・主な事業費	予算額
事業活動収入計	32,692,400
消防互助会掛金	5,700,000
事業収入	241,500
補助金等	13,179,000
負担金	5,187,000
年会費	5,870,000
その他収入	2,514,900
事業活動支出計	33,634,500
火災予防運動の支部活動費	900,000
消防思想普及啓発費	2,535,000
秋田県消防大会費	905,000
女性消防団員教育訓練費	202,000
秋田県消防操法大会費	1,712,000
支部消防操法大会助成費	900,000
全県消防団長研修費	257,000
女性消防団ネットワーク会議費	337,000
消防互助会見舞金支出	3,000,000
当期一般正味財産増減	△ 942,100
一般正味財産期首残	7,243,930
一般正味財産期末残	6,301,830
基本財産	3,000,000

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 協立
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52) 6361
(52) 6494

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

特別研修に参加して

日本消防協会が主催する第三九回消防団幹部特別研修及び第一二回消防団幹部候補中央特別研修は、日本消防会館で別表の日程、研修科目により実施された。

本県から参加した八名の受講者から報告があつたので紹介します。

研修名	幹部特別研修	幹部候補中央研修 (男性団員の部)	幹部候補中央研修 (女性団員の部)
開催月日	平成25年1月15日(火) ~18日(金)	平成25年2月5日(火) ~7日(木)	平成25年2月13日(水) ~15日(金)
参加者数	47名 (うち県から1名)	138名 (うち県から4名)	90名 (うち県から3名)
研修科目	日消会長講話 課題討議・発表 消防行政 防災対策 消防団実務 危機管理 他	日消会長講話 課題討議・発表 消防団運営 活動事例 (東日本大震災) 危機管理 他	日消会長講話 課題討議・発表 消防団実務 防災対策 予防 話し方講座 他

消防団幹部特別研修



北秋田市消防団 団長 北林 榮

平成二五年一月一五日から一八日迄、四日間日本消防協会で開催されました。

目的は、「消防団の災害対応能力の向上と活性化を図るため、上級幹部に対し各種研修を行い、消防団の指導者を養成するものである」とあり、東日本大震災を踏まえた災害時に関連した内容が多くなっていました。

日本消防協会秋本会長の講話に耳を傾け、消防庁危機管理センター・東京消防庁第六消防方面救助機動部隊等の視察を行い、映像ではなく、実際に見ることの重要性を実感しました。

グループ討議は、参加者を六班に分けて編成し、五つのテーマから一つを選択し討議を行い、最終日に代表発表する形式で行われました。

私の班は、「消防団員の確保対策について」のテーマを選択しましたが、特に時間をかけて討議されたのは、大規模災害時における消防活動についての内容でした。

この研修で得た事を、今後の消防活動に活かしていきたいと思えます。全国の消防団幹部の皆様と様々な意見交換が出来ましたことを、有り難く感じ研修を終えました。

消防団幹部候補中央特別研修



潟上市消防団 団員 宇瀬 順

この研修に参加し、全国からの研修生と様々な話をする事ができ、貴重な体験をしました。

研修のなかで、「サラリーマン化が進む中での、効果的な活動方策について」をテーマに議論する場がありました。また、新入団員の確保策も含め、現状の課題についても、各都道府県の団員との交流の中で、いろいろな活動事例から、地元での活動に活用出来るヒントを見いだせた感があり、自分の考え方を見直す大変有意義な研修となりました。



秋田市消防団 団員 林 保志

私は、今回の研修は大変有意義な研修だと思いました。

私の参加した課題討議は「若年層の団員確保の対策について」がテーマでした。やはり、各県の方も団員確保が難しく、昔ながらの友人知人からの勧誘や、中にはホームページ・フェイスブック等を使ったITでの勧誘をしている分団もありました。

特に一緒になった東京都町田市消防団の部長は、前述の他に、小学校の授業で「消防団って何？」という時間を頂いて、子どもたちにパワーポイント編集した教材で教えているのには驚きました。

今回は、全国の熱い分団員と熱のこもった話を出来る機会を与えてもらったことに感謝します。ありがとうございました。



大仙市消防団 団員 藤峯 隆洋

今回の研修では参加団員が六班に別れ各課題に対しての討議を行いました。

私は東北出身という事もあり、「大規模災害時の対応」について討議し、東日本大震災発生時、各都道府県の消防団の方々の対応、行動をまとめ

てマニュアルを作成しましたが、短
期間で答えを出すのは非常に難しい
課題でした。

全体を通して、最終日の岩手県大
槌町消防団 部長 鈴木亨さんの「大
震災時、正義感と使命感でその場に
留まる気持ちはわかるが、団員の避
難する姿を見て住民に避難を促すと
いう事も大切。想定内を想定するな。
想定外を常に意識しよう」とい
う言葉が印象的で、実際に目のあた
りにした方の言葉は心にひびきまし
た。

他にも消防庁危機管理センター視
察や全国で活動している仲間と情報
交換ができ、非常に有意義な研修で
あり、消防団員としての自覚がより
一層高まりました。地元を持ち帰り
これからの活動に役立てていきたい
と思います。



羽後町消防団
団員
石 垣 亮

研修では、全国の消防団員の方々
と講話やグループ討議、東日本大震
災などの活動事例のお話を聞くこと
ができ、団員としての知識を高める
ことができました。
グループ討議は消防団の訓練のあ

り方についてでしたが、全国で様々
なやり方があり、いいところは真似
ていこうと思います。

東日本大震災のような大規模災害
や、集中豪雨などは自分たちの町に
も起こりうることなので、消防団と
して救助活動もできる知識や多機能
車が必要だと思いました。

今回の研修で得たことを、これか
らの消防団活動に活かして、「災害
に強い羽後町消防団」を築いていき
たいと思います。



鹿角市消防団
団員
安 保 千 夏

二月一三〜一五日にかけて行われ
た「第一二回消防団幹部候補中央特
別研修」に、鹿角市消防団の女性団
員として、初めて参加させていただ
きました。研修では、消防団活動に
関わる様々な事を学びながらグルー
プ討議を行いました。

多くの女性団員は、応急手当教育
や防災教育を主な活動としています。
教育活動では飽きられないことが大
切なので、他地域ではどのような手
法を用いて教育を行っているのか知
りたいというニーズがあり、グルー
プ討議では「女性団員の公的な情報

共有ネットワークが欲しい」という
意見が多く聞かれました。
みなさんの前向きな姿勢に頼もし
さを感じました。

今後は、鹿角でも他地域が参考に
したくなるような活動ができるよう
に知恵をしばり、実行していきたい
と思います。



大仙市消防団
団員
畑 本 双 美

今回の特別研修に参加して、全国
の皆さんの色々な意見や活動事例等
聞く事が出来て、大変意味深い三日
間でした。又講師の先生方のお話で
も、消防団としての任務、地域の安
全と住民を守るための知識をしま
り身につけておかなければならない
事等、未熟な私達にとりましては多
くの課題となりました。

全国の消防団員との情報交換の中
で、実際に東日本大震災を体験し、
津波により家を流されてしまった方
のお話や、見習うべき事、失敗し
た事例等を参考にしながら、今後自
分達の活動に活かして、少しでも地
域と住民を安心させるために役立ち
たいと同時に、私達消防団に対して、
住民の方々が親しみを持って、お付

き合いをしていただけたら、もっと
活動の範囲を広げていけるのではと
思いました。



大仙市消防団
団員
佐 藤 美 佳 子

今回の研修では、講義・講話や見
学は勿論、全国の行動力ある女性消
防団員の方々と交流し、大変に刺激
を受け、自分の視野が広がったよう
に感じました。

講義の中では特に、長野県消防
協会五十嵐幸男参与の「精一杯、
正直に、身の丈に合った楽しくや
りがいのある消防活動を」「女性だ
からと決めつけない、手を抜かない」
「来てくれた団員に対する感謝の気
持ちは持ち、相手の立場に立って
考える」などの言葉が心に残りま
した。

班別の課題討議では「団員の確保」
をテーマに、各団の活動の努力や悩
みが話し合われ、女性消防団の活動
の多様性や将来性を感じました。
自分の団は発足してまだ三年足ら
ずで、学ぶことがたくさんあります
が、焦らず自分達が求められている
ことのために、今できることを頑張
ろうと思いました。

支部情報アラカルト

五城目町

火災予防組合のご紹介

五城目町では、七十一ある町内会火災予防組合の連合体として五城目町火災予防組合が組織されています。

例年の主な活動、事業内容としては、新小学一年生を対象に、防火PRを目的として鉛筆等の入学記念品を贈呈しているほか、子供の火遊び等による火災を未然に防止するとともに、火災のみならず地震等災害に対する意識の高揚を図ることを目的とした防火・防災作文コンクールを行っています。また、春には山火事防止キャラバン、秋には全町防火キャラバンを実施しているほか、秋田県総合防災訓練の視察や自主防災組織育成指導者研修会といった各種研修会等にも積極的に参加しています。

防火・防災作文コンクールについては、町内各小学校の五年生全児童を対象とし、平成二十四年度は六十一名の児童から応募がありました。審査会は一月二十三日に行われ、審査の結果、最優秀賞には町立大川小学校の小熊心さんの作品「便利な暮らしのうらに・・・」が選出されたほか、優秀賞の四作が選出されました。表彰伝達式は、二月十三日に各小学校において行われ、小玉哲男組合

長より表彰状の授与に続き、最優秀賞を受賞された小熊心さんには記念品としての楯が、優秀賞を受賞された児童にはメダルが贈られたほか、応募児童全員に図書カードが贈呈されました。なお、最優秀賞を受賞された小熊心さんの作品は、四月に開催される平成二十五年度当会総会の場において作者朗読により披露される予定です。

当組合は設立五十余年を数える歴史と伝統ある組織であり、地域に根差した活動を行っています。

自主防災組織の必要性和その育成が求められる昨今、より柔軟性に富んだ組織として、今後更なる活躍が期待されます。

〔情報提供〓男鹿潟上南秋支部〕



平成二五年度 秋田県山火事予防運動

この運動は、山火事が多発する春季において、県民一人ひとりに山火事予防思想の普及を図り、森林資源と自然環境の保全に努めることを目的に実施するものです。

統一標語

山の火事

もとは小さな 火種から

実施期間

平成二五年四月一日(月)～五月三十一日(金)までの二ヶ月間

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成 25 年		平成 24 年			同期比較	
	3月	累計	3月	累計	年計	3月	累計
建 物	13	56	18	54	234	- 5	2
林 野	0	0	0	0	31	0	0
車 輛	3	10	2	4	35	1	6
そ の 他	2	5	1	6	82	1	- 1
合 計	18	71	21	64	382	- 3	7
死 者 数	4	10	2	6	17	2	4
負 傷 者 数	3	15	5	22	66	- 2	- 7

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋田県代理店

株式会社 高義商会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 ⅴ(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 ⅴ(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シパウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp